

KSKP Threshold

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.15

～すれっしょんど～(出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュョルドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です

Drug Addiction Rehabilitation Center
DARC



BE KOBE 神戸であれ

ようやく涼しくなりました。私は基本的に肌寒い季節が大好きです。それは決して太っているからということではありません。昔から肌寒い季節の朝に感じる感覚が好きなのです。寒くて眠い気分で仲間と飲むコーヒーと、そこで生まれる会話は夏の時期よりも人を近く感じます。寒さが人と人を引き寄せるんですね。

さて、私たちは様々な支援者の方々の思いによって支えられていることを、日々実感しています。感謝しています。そのような方々はセミナーなどでお会いするとあたたかく声をかけてくれます。私たちの仲間の社会復帰のために、私は啓発活動にも力を注いでいます。3年前と比べると、依存症の理解も進んだように思います。ダルクに来て仲間を仲間と思えるようになったら、失敗を繰り返しながらも、薬物は止まります。ですが、その後、社会に飛び立っていくことへの障壁はまだたくさんあります。依存症者が歓迎される社会はありません。仲間たちは支援者の中へ羽ばたいていくのではなく、地域へ羽ばたいていくのです。そう考えると、私たちがすべきことは、啓発も含めて、もっと近くのつながり、市民としての、人としてのつながりを作っていくことだと感じています。私たちの病気を理解することとともに、私たちの人となりを見て、普通に接してくれる社会が、神戸ダルクヴィレッジの周りから始まっていくこと。そして地域で卒業生たちが支え合える場所を、今以上に次のステージへ進める準備をしていきたいと思っています。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

第 35 回 ECCNA に参加して

神戸ダルク ヴィレッジ スタッフ 梅田容子

7 月にスイスのチューリッヒで開催された NA ヨーロッパコンベンションに家族で参加してきました。

会場となったのは、Landesmuseum Zürich Auditorium (スイス国立博物館横のファンクションルーム)で、周りは芝生公園や大きくてきれいな川など、都会の駅前ながら自然豊かな場所でした。

もちろんわたしは英語もドイツ語もわかりませんので回復の雰囲気味わう、といった感じでしたが、メインスピーカーを芝生の広場で寝転んで聞いている時間は、なんとも贅沢なひとときに感じました。7 月のスイスはサマータイムで、夜の 10 時になるまで空が暗くなりません。夏の終わりの夕暮れに涼しくなった縁側で家族で夕涼みをしているような、そんな懐かしさも幸せなとても満たされた気持ちになりました。



そして海外の NA イベントでは、日本に持ち帰ってやってみたいと思うアイデアにいつも出会えます。金券の代わりのようなカードを購入してフードやドリンクを注文したり、ECCNA ロゴ入りのカップを買って繰り返し利用するエコな取り組みをしていたり。広報やフォンラインのチラシがあまりに格好良くてたくさん貰ってきました。その他もたくさんのチラシの中からヒントを得たので、来年の夏は自分のホームグループでサマースピーカージャムをやってみたいと思っています。



コンベンションが終わってから、スイスの美しい街並みを楽しめる鉄道列車に乗って、ツェルマットへ向かいました。ガイドブックで見ていた通り、車窓からのロケーションは素晴らしく、たくさん写真に収めました。

ツェルマットに向かったのは、スイスの名峰マッターホルンを拝むためでした。下車してすぐにその荘厳な姿をとらえることができました。翌日、グレイシャーパラダイス展望台からマッターホルンを拝みました。あの反り立った北壁と、シャープな頂の美し

い姿を間近で見れたことの感想は、写真では表現しきれず、言葉で表すにもわたしのちっぽけな語学力では表しようがありませんでした。夫は「たしかにあそこ(頂上)には神がいる!」と言っていました。この名峰を拝む旅は、そうに違いない!と確信する体験でした。翌日はスネガパラダイスにて夫はオフロードな遊びを、私と子供たちは山上公園で遊びました。青々とした草原と、湖に移る山々の姿が美しい素敵な場所でした。子供たちはブランコや滑り台などの大型遊具や水の仕掛けの遊具に夢中になって遊んでいました。母の心のゆとりと、子供のストレス領域と遊び場の面積は比例すると思います(笑)。



翌日、ツェルマットを後にして、再び鉄道でグリンデルワルトに向かいました。次なる目的はトップオブヨーロッパの名を誇るユングフラウヨッホです。こちらもとにかく美しかったです。あんなに近くに雪山(しかも夏の)の威力を感じたことはありませんでした。ゲレンデに出て、子供たちと雪合戦をしました。子供たちにとっての人生初の雪遊びが海外での経験になるとは思っていませんでした。そして、地球上にこんなに美しく、来世までも大切に守っていかなければいけないと思える景色や自然に素面で出会い、感動できたこと。どれも最高のギフトでした。過去は山や自然の美しさに気付くこと

過去は山や自然の美しさに気付くことができませんでしたし、自分一人では来れなかったし、来れたとしてもスイスは旅先に選ばなかったと思います。これまでもそうですが、今回もたくさんの知らなかった素晴らしい世界を教えてくれた夫に感謝しています。

今年に入って、わたしにとって家族にとって悲しい出来事があり、今回の旅は心を癒す目的もありました。さらに傷つくことを恐れていたもので、日本でのNAイベントやミーティングをしばらくお休みしていました。そんなことを知っていた海外のNAメンバーであり、友人の一人がわたしたち家族に、わたしに、最も寄り添ってくれ、この旅をより豊かなものにしてくれました。最愛の友人、インディアナ・ジョーに感謝しています。彼の深い愛情と、惜しみなく分け与えてくれた、経験と希望と力に。そして人生は捨てたものじゃない、と教えてくれたNAに感謝しています。



JRCNA in 宇都宮に参加して

神戸ダルクヴィレッジ スタッフ 濱津太一

いつも神戸ダルクヴィレッジへのご理解、ご支援をいただきありがとうございます。

去る9月5日から8日にかけて栃木県の宇都宮市で15回目のジャパンリージョン・コンベンション・NAが開催されました。コンベンション実行委員会の仲間たち、陰でコンベンションを支えてくれた仲間たち、サービスお疲れ様でした。そして本当にありがとうございました。今回の参加人数は約1200名との事でした。べき葉中さんたちが集まりました。



「Carry the message ～回復を手渡す～」が今回のコンベンションのテーマでした。終始、メインホール、各分科会、ロビーや外の喫煙所等、会場のいたるところで日本各地のメンバー、海外のメンバーたちが回復の喜びを分かち合い、パワフルな希望のメッセージを運び、伝えていました。僕

が会場に足を運ぶという事で希望を貰えました。カウントダウン(断薬期間の長いメンバーたちからコールされ徐々に断薬期間が短いメンバーがコールされていくと共にどんどん会場は盛り上がり、断薬期間が一番短いメンバーが一番大切にされ祝福される、コンベンションでのハイライト的プログラム)の時に「just for today 今日一日」の断薬日数でステージに上がっていた仲間が、終わった後ロビーの片隅で感動して涙している姿を見つけました。僕はほんの少しの勇気を持って歩み寄り「ありがとうございます！おめでとう！」と伝えました。



苦しくても自分と向き合い勇気を持って今ここにいる「その仲間の姿」に僕が勇気をもったお礼の「ありがとう」でした。その姿にぼくが救われ、助けられたという事でした。僕が貰う事だらけでした。

だからやっぱり「仲間に会いにコンベンションに行こう！」という事でした。

僕のいつかのあの日の痛みは今ここへ繋がるための招待状でした。約 70 年前、カリフォルニア州ロサンゼルスで最初のミーティングが開かれました。それから時を経て大陸を経由しここ日本にも希望のメッセージが届きました。時を軽く超えた魂のラリーでした。今ここに在るメッセージは、いつかの誰かの血と汗と涙の結晶の行動の結果という事でした。雨が降っても槍が降ってもあの日ミーティングを開けてくれた誰かのおかげなんだという事でした。貰ったものを無償で分け合い手渡してゆくドラマ。この不思議な流れの中で今日も魂の旅は続きます……。



体験談 神様に感謝

ヒロ

僕は今年の三月から神戸ダルクに入寮し自分の回復について日常を通して学ばせてもらっています。神戸生まれの神戸育ち今年 51 歳になる薬物依存症者のヒロといいます。僕が 50 歳にしてダルクに入寮し自分の生き方について改めて学ばせてもらおうと思ったのにはいくつもの因子が僕をその道へと進めてくれたと僕はとらえています。僕の人生において両親が元気だったころの記憶、両親の仲が崩れだした頃の記憶、両親が自殺したころの記憶、その後祖父夫婦に育てられたころの記憶それ以後、道を踏み外してきたころの記憶、28 歳で結婚し子供が産まれ家族が出来たころの記憶、30 歳で離婚し家族を失ってしまったころの記憶、このままではだめだと考えるようになったころの記憶、そう考えても行動が伴わず失敗を繰り返してきたころの記憶、聖書を手にして自分の内面の罪に気付かされたころの記憶、それでも失敗を繰り返し挫折しあきらめたころの記憶、これらの記憶は僕にとってその時その時代において僕自身が成長するための出来事だったと今は過去を振り返って思うことが出来ます。その時その時代はつらいことや悲しいこと恨みや妬み、時には怒り苦しみもがきそれでもどうしようもない時どうにもならないときも僕の人生にありました。きっと誰の上にもあると思います。それら一つ一つを嘆



くより僕はその時その時代の記憶の塗り替え、僕自身が成長してないがため、経験が未熟なために間違った感じ方、とらえ方、受け取り方しかできなかった。これもまた必要な僕にとっての因子の一つ一つなんだと思うんです。僕はこの度の 5 度目の受刑中自分の過去の整理、記憶の塗り替え作業してきました。その方法はあった事実は変えることはできませんがその時に感じたことを思い返し向き合い物事の考え方とらえ方を変えることで少しずつ、心を整理できるようになりました。全部が全部、心が整理できるわけではありませんがそれでも済んだ過去の感情に縛られるよりこれからのことを見据えて今を前向きに生きたほうが楽しし損得勘定で考えると得なんですよ。そのことにやっと



50 歳にして少しずつ気付き始めました。今ダルクで日常を通してプログラムを通して楽しんでます。もちろん人生と一緒に喜怒哀楽は日常茶飯事です。これはどこに身を置いてでもです。よく耳にする話ですがダルクの生活は懲役と一緒にやとか、自由がないとか言われますが僕も取り組むまではそんな不安も抱えていました。いざ一歩前へ飛び込んでみたらなるようになるもんですね。人間はしぶといです。心の持ち方でとらえ方で自分の人生良くも悪くもできる。良い人生を選びたいですよ。そう感じることに神様に感謝。

畑プログラム

トシ

こんにちは、薬物依存症のトシです。今年の 2 月に刑務所を出所し、早いもので神戸ダルクにお世話になりこの 10 月で 8 ヶ月になりました。この 8 ヶ月の間、神戸ダルクでは十津川村や無人島でのキャンプや鳥取ダルクとのバーベキューと海水浴のフェローシップ、他にもアメリカインディアンの魂を浄化させる、「スウェットロッジ」という儀式や、この最近では神戸港から阪九フェリーという大きな船に乗って、北九州ダルクフォーラムに参加させてもらったり、栃木県宇都宮市で開催された、NA のコンベンション等本当にたくさんの楽しい経験をさせてもらいました。特に私は、阪九フェリーの様な色々な設備の整った大きな船での船旅が大好きで、大海原を見ながら展望大浴場の入浴や、夜、



甲板から見える向こう岸の夜景や朝、地平線から昇る朝日は圧巻で素晴らしく綺麗でした。勿論、宇都宮のコンベンションも新しい仲間との出会いや、日頃は会えない懐かしい仲間との再会も最高に楽しい時間を過ごせました。そんな、色々な体験の中でも神戸ダルクにお世話になった当初から週に 1.~2 回畑のプログラムがあるのですが、畑といっても雑草の生い茂げった荒れ地を耕して、作物を植える畝を作っていくのですが、最初はこの畑のプログラムが本当に嫌で嫌で仕方がなかったです。ところが、ある日代表の梅さんから畑の管理を任される様になり最初は「ええ～！何で俺が？」と思ったのですが、梅さんから貸し与えられた野菜の育て方とか肥料のやり方などの本を何冊か読んでいるうちに、畑作業というのは作物の種や苗を植え付けて適当に水をやるだけではなくて、間引きをしたり追肥といって、決まった時期に肥料を追加してやったり、また同じ場所に同じ作物を植えると病気になってかれてしまう連作障害等、結構深いもので、かなり計画的にやり絶えず世話しないと



いけないものだということ、管理を怠れば良い作物が育たないということを知り、今では畑の管理表を作り、その収穫を、とても楽しみにしている自分がいるのです。あんなに嫌だった畑プログラムが今は毎日「土作り」とか「害虫対策」等の本を読んで勉強しているのです。不思議でしょ？「笑」

体験談 星がきれい

ヨネ

自分はブロンという咳止薬に依存していました。ブロンを飲むと普段楽しくないことが楽しくなったりしていました。そんな生活を続けているうちに実家で問題を起して精神病院に入院させられました。そして病院の中でダルクという施設があることを聞きダルクに繋がりました。ダルクに繋がってからはしんどいことばかりですが頑張っていきたいと思っています。これからは人に迷惑をかけず人のためになるような人生を送っていきたいです。ダルクは楽しいところではないですが少しずつ慣れていきたいと思っています。ダルクでの思い出はキャンプに行ったことです。星がきれいで凄くよかったです。



エイサーデビュー

タカ

こんにちはアディクトのタカです。この度は栃木県で開催されたコンベンションに参加してきました。東京、北海道、栃木の参加で3回目です。つながりたてで行った東京では全く楽しくなかったという思い出しかありません。一日でも早く薬が使えるばと思っていました。北海道の時ではもうすぐ施設も退寮すると言う事もあり変な自信妄想で俺は大丈夫という気持ちで参加していたなあって思います。まあ自分が思っていたコンベンションのイメージはめんどくさい、面白くない、とりあえず形だけでもとおもって参加していました。そして最悪なあの日が来ました。何回も何回も同じことを繰り返す。クリーン5年での覚せい剤でのリラプス。気持ちよかったのは最初の1,2時間くらいだったのかな？そのあと外に出ることは一切できず部屋の中をのたうち回り人間とはとても思えることはできないようなこととなりました。回復のピラミッドは見事に崩れ落ちその代償はすごく大きかったです。ここが自分のターニングポイントになればと思います。神戸ダルクで一からやり直しをはじめてからの仲間との再会！！どうなる事かと思いきや、みんな笑顔で温かく楽しく自分のスピリチュアルな部分が動き始めたように感じました。そしてもう一つエイサー太鼓の演舞デビューです。かっこよく思われたい、すごいと思われたい、あのようになりたいと思われたいという気持ちからとてつもない緊張がありました。エイサー太鼓は大好きです。薬を使わない楽しさの一つです。毎日練習して少しでも緊張しないようにしました。仲間は言うてくれました。太鼓も回復も一緒だよ！間違ってもいい！失敗してもいい！思いっきり格好つけなさい！そして楽しみなさいと。今自分にできることすべてで楽しむことができ終わった後仲間たちからすごい格好良かったよ！って。気持ちよくなるような言葉をたくさんもらいました。たくさんの仲間がいると言う事を実感し俺の居場所はここなんだ。ずっとここに居たいって思いました。みんな本当にありがとうございます。これからも末永くよろしく願います。コンベンションすごくすごく楽しむことが出来ました。あっ！最後にデビンさんのOSMよかった！(笑)父、母、兄、姉、そして仲間へ感謝。



活動報告

2019 年 8 月 23 日～

ダルク追っかけ調査会議参加
神戸保護観察所職員見学訪問
北九州ダルクフォーラム参加

2019 年 9 月

鳥取ログハウス水引き込み作業開始
加古川学園メッセージ&家族講演
NA 日本リージョナルコンベンション in 栃木参加
近畿麻薬取締局神戸研修講演
たつの市薬剤師会講演
有園基金次年度説明会参加
「あなたの声を届ける」セミナー神戸開催
ファイザー助成ヒアリング
美祿社会復帰促進センター訪問
カトリック社会福祉活動会議参加
群馬ダルク TC ワーク開催
障害者と病者のためのミサ参加
松山刑務所薬物教育指導
韓国ダルクフォーラム参加
リカバリーパレード参加
関西圏ダルク施設長会議 in 神戸開催

10 月

姫路ライオンズクラブ様見学訪問
清水基金就労研修開催
沖縄プリズンサークル上映会参加
NA H&I 勉強会参加

アゲインファーム ボランティア 月2回
垂水病院メッセージ 毎月第3火曜日
垂水病院スマーブ 毎週金曜日
神戸保護観察所スマーブ講師 毎月1回
神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日
明石保健所家族相談 毎月1回



近況報告・活動予定

グループホーム開設に向けて&畑の完成に向けて、またそれ以外にも神戸ダルクでは、今体制が変わる大変な時期にきています。研修の仲間たちが、それぞれの居場所のために、非常に精力的に動いてくれています。仲間のサポートは、口で言うよりも行動しながら覚えていくものだと、私たちも再確認しています。神戸ダルクでは、半日はそれぞれが別々の作業をしています。この調子で乗り切れば、あとはみんなで過ごす正月が待っています。卒業生も3名になり、社会での活躍を応援するばかりです。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュヨルド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただける場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は1口 3000円（ニューズレター定期購読料を含む）からになります。刑務所内の方々との文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談
相談の内容に関しての秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘置所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

郵便局のシステムが変わったため 8 月から 9 月のご献金が確認できておりません。申し訳ございませんが

ご献金くださった方々お名前は次回併せて掲載させていただきます。

ご献品

竹川智恵子様 加藤武士様 富田安世様 ヒデキ様

(令和元年 8 月 13 日～令和元年 9 月 20 日到着分・順不同 ※購読料・支援会員費の方を含む)

献金・献品をお願いいたします。

いつもご支援いただき誠に有難うございます。毎回のお願いで本当に心苦しく思いますが、運営維持のためのご寄付及び、ご家庭で余っている日用品の献品をお願いいたします。

神戸ダルクでは、仲間の居場所としての寮・グループホームなどの設置に奮闘しています。そこで使うような備品がなかなか揃いません。ご家庭で余っている日用品や家電製品などもありましたら、ご連絡ください。

また、ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。**グローブ・自転車**などもございましたら是非譲ってください。よろしくお願いいたします。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 651-0068 神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

今年はなかなか暑さが収まりませんでした。10月に入り少しずつ過ごしやすくなり、秋を感じるようになってきました。最近では昼食にダルクの畑で取れた野菜が出てくることもあり、夏の暑い中畑仕事をがんばっていたみんなのことを思うとより一層おいしく思えます。フォーラムに向けて準備や太鼓の練習にも熱が入ってきています。実りの秋ということでいままですやってきたことの成果をだせたらいいなと思っています。

神戸ダルク ニューズレター Threshold (出発点) Vol.15

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 石井奈美

印刷 プリントバック

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部 100円 年会費 2000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階